

## 令和7年度 データ活用研究部会の役割

教育データ利活用についての研究（県域アカウントを用いたデータ利活用・MEXCBTに関する調査）

※ MEXCBT（メクビット）：文部科学省のCBTシステム

### 年度当初の課題等

#### 県域のアカウントを用いたデータ利活用

- 各校が使用する様々なツールのデータが混在しており、統合や連携が難しい。
- 県域のアカウントで利用できるツールを、活用している教職員・児童生徒が少ない。

#### MEXCBTに関する調査

- 全国学力・学習状況調査（全国学調）は、令和9年度、MEXCBTに全面移行の予定である。
- 地方学力・学習状況調査（地方学調）においても、文科省はMEXCBTの活用を促進している。

### 方策

- 将来的な教育データ利活用のために、データ形式の標準化の必要性を発信していく。
- 県域のアカウント及びツールの積極的活用と教育データのクラウドへの蓄積を促していく。
- MEXCBTでの全国学力・学習状況調査や他県の地方学力学習状況調査について、動向や運用状況等を調査・研究する。

### 活動の進捗状況・今後の予定

☑：これまでの活動内容 □：これから活動予定

#### 県域のアカウントを用いたデータ利活用

- ☑「県域のアカウントを活用するメリット」や「標準化を図る必要性」等を部会通信で発信
- ☑学校訪問担当者と連携した直接的な活用推進（全体会などで先生方へ説明・訪問の際、実際に活用等）
- ☑キャリアパスポートのデジタル化に向けた検討 ※「別紙スライド」を参照
- キャリアパスポートのデジタル化を推進（関係課と連携し、デジタル化を推進していく旨を周知）

#### MEXCBTに関する調査

- ☑「地方自治体の学力調査等のCBT化検討研究会」への参加
- ☑他県学力調査の実施状況の聞き取り（県単位でMEXCBT利用となっている17自治体を対象）
- ☑全国学調中学理科（IRT）をもとにしたフィードバック方法の分析
- 他県の調査結果等をもとにした「同一問題出題方式」と「IRT」それぞれの利点・課題を整理

※ IRT（項目反応理論）：学力スコアを推定するための統計理論で、それぞれに出題される問題も異なる。

## キャリアパスポートのデジタル化の方向性について

### 現状及び課題

- 市町村立学校の児童生徒においては、R9以降、全ての学校で「県域のアカウント」が利用できるように各市町村教育委員会に依頼している。
- 進学時のデータ引き継ぎ（持ち越し）も、R9以降からの実施予定である。  
※各自でデータをエクスポート・インポートすれば、データ引き継ぎ（持ち越し）は可能。
- 市町村によっては、域内で統一されたキャリアパスポート用ファイルや形式などがある。
- 教員用のアカウントは整備済みであるが、Googleツールに不慣れな教員もいる。

### デジタル化の方法

各自のGoogleドライブ™内にキャリアパスポートのフォルダを作り、  
任意のファイル形式で保存する。

- ・ R9までをデジタル化の移行期間とし、進学時の紙媒体での引き継ぎを減らしていく。  
※各市町村教委に確認の上、可能な学校からデジタル化を推進していく。
- ・ 紙のキャリアパスポートをデジタル化しても構わない。
- ・ 児童生徒自身が、より有効にキャリアパスポートを活用できるようにすることを最優先する。

### サポート内容

- ◎ 「Googleドライブ内にキャリアパスポートを保存する手順書」を作成・配布
- ◎ 「Google Classroomのコメント機能を利用する手順書」を作成・配布